放送大学「生涯学習支援番組」（2022 年度第 4 回制作）の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園（以下、「学園」という。）のテレビ番組（以下、「番組」という。）の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2022 年度に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

別紙 1 のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

別紙 1～4 のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1）放送番組の演出

・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2）内容検討・番組進行表の作成

・番組全体の構成案（項目、配列、時間、配分）策定

・映像・音声素材等の選定（ビデオ・写真・コメント等）

・出演者との内容・スケジュールの交渉（講師・ゲスト等）

・ロケーション先の下見、選定

3）ロケーション（国内）の実施と編集

・ロケーション（国内）に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施

・出演者のヘアメイク及び衣装の手配

・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、後処理

4）番組の素材資料の収集と作成

・動画・静止画・図版等の収集および作成。なお、資料の収集にあたっては学園が推奨する素材（AFP）を優先的に選択する。

5）請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理（音楽等一部を除く）

処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

・学園が定める承諾書を出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。

・番組出演者にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。

・上記 4)の素材資料の放送（マルチ編成含む）等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理、並びに処理に伴う費用は請負事業者が負担すること。

・放送（衛星、CATV 等による同時再放送を含む）・インターネット配信（学園の HP 上での公開。ただし、ダイジェスト動画においては、ユーチューブ等外部 HP 上での公開にも対応のこと）

・学習ｾﾝﾀｰ等への DVD 配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理

・権利処理及び利用した素材（音楽及び上記 3)等に伴う出演者並びに上記 4)含む）等の記録報告

6) 美術セットの調達と操作
・大道具・小道具、生花木の調達及び操作
7) タイトル、テロップ・パターンの制作等
・タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
・CG・アニメーションの作成及び操作
番組のダイジェスト動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。
8)番組の試写
・学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業
9) 放送用台本の作成、印刷
・放送用台本の作成及び印刷
10) 音響効果
・番組に関わる選曲および効果音制作等
11) スタジオ収録及び収録時の副調整室指揮
・スタジオ収録に関わる各種伝票処理
・出演者・技術スタッフとの収録打合せ
・ドライ、カメラリハーサル
・学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し
12) 広報用写真の作成
・画像例
・番組タイトル画像
・各出演者のバストショット画像
・出演者全員が映っている画像
・番組イメージの分かるグラフィック画像等
・画像サイズ1920×1080
・放送大学ウェブサイトでの掲載・ニュースリリース配信等のネット利用に著作権処理を行っているもの
13) 後処理、手直し等
・資料の整理
・伝票の整理
・番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
・納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。
14) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加

5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数
請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等
1) 収録は学園のテレビスタジオを使用する。収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組考査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。
3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
〇収録時に必要な要員（技術要員を除く）〇ロケ（要員および機材）

〇オフライン編集　〇音響効果　〇スタジオ大道具・小道具、道具操作
〇メイク　〇衣装(スタイリスト)

4) 上記に含まれないものについては双方で協議して決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体はXDCAMメディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全てXDCAMメディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を別紙1に示す請負期間完了日までに制作部へ納品し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は学園技術フォーマット**（別添の「テレビ制作技術基準」を参照）に準拠すること。**

	生涯学習支援番組 （1番組あたり）	告知用動画 （1番組あたり）
放送用本番素材記録XDCAMメディア	1本	1本
クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1本	1本
番組考査試写用DVD－R	1本	1本
番組編成業務用DVD－R	1本	―
放送用台本(電子データ)	1式	―
広報用写真電子データ	1式	1式

9. 番組制作業務完了等の報告

請負事業者は、番組完成後「番組制作業務完了報告書」、「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」を放送部放送管理課に提出し、学園職員による検査を受ける。また、出演者から受領した**承諾書の原本**も放送部放送管理課へ提出する。（「4. 番組制作業務の具体的内容、手順」の（５）を参照）。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8及び9の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
学園は、適法な請求書受理後、40日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

1) 制作した番組に関する著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。

2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。

3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて１名以上選任し、任務に当たらせるものとする。

2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14 業務の再委託等

1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。

2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

別紙１

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組　３番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	“科学”からの招待状	惑星と生命の普遍性と多様性を探る（45分×2本）	2年 20回	4,180 千円	契約締結日～ 令和4年12月28日
2	数理・データサイエンス・AI	データサイエンス専門レベル：脳トレアカデミア・統計学の腕力を鍛える（仮）（45分×5本）	4年 40回	11,000 千円	契約締結日～ 令和4年11月30日
3	スペシャル講演	スペシャル講演（45分×7本）	2年 20回	11,011 千円	契約締結日～ 令和5年2月28日

２．告知用動画（放送やネット配信等で利用する１分間の告知用動画）　３番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	惑星と生命の普遍性と多様性を探る	2本	上記1に含む
2	データサイエンス専門レベル：脳トレアカデミア・統計学の腕力を鍛える（仮）	5本	上記1に含む
3	スペシャル講演	7本	上記1に含む

テレビ制作技術基準

別添1-1

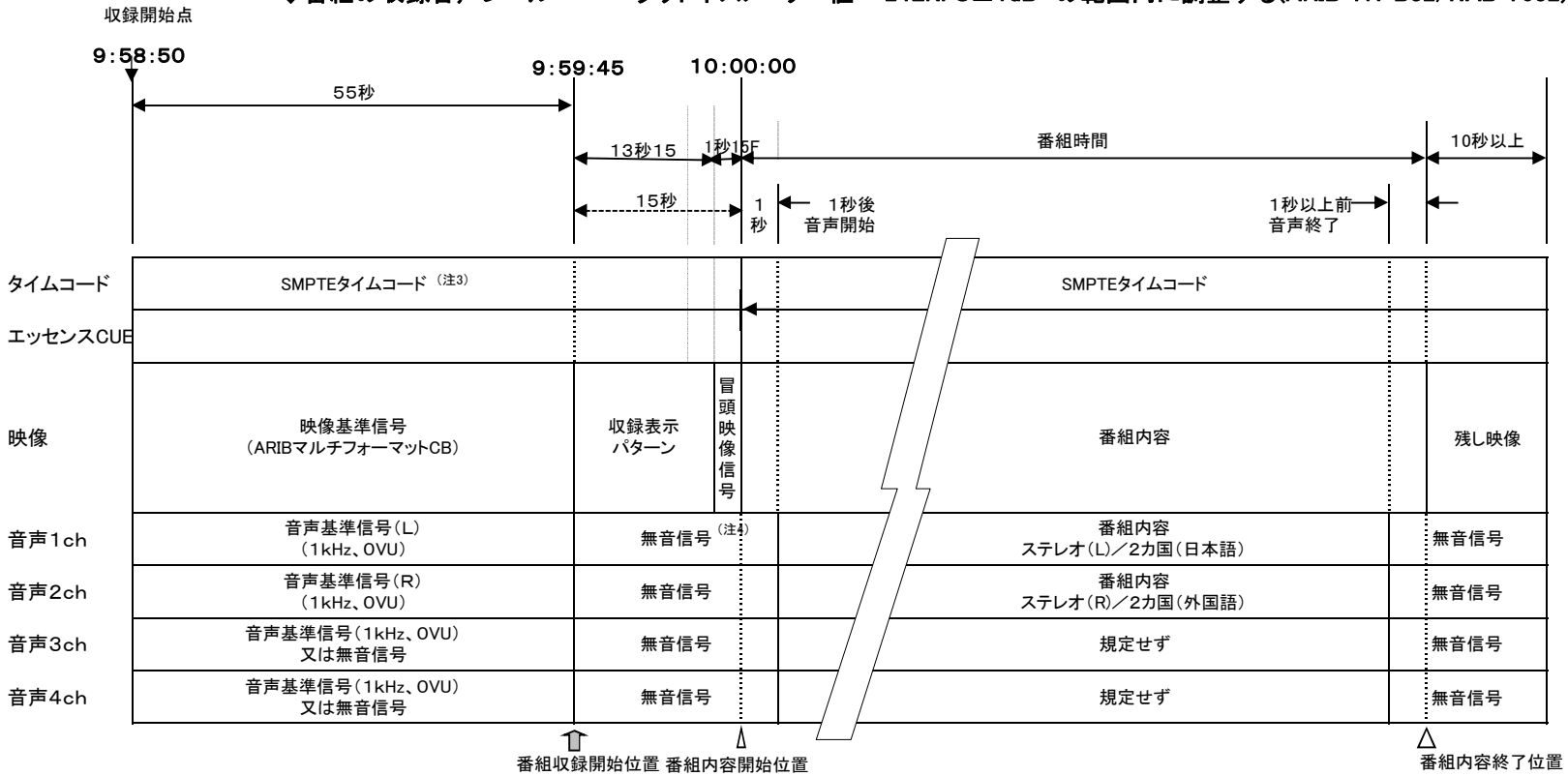
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和3年4月１日

◇映像：MPEG2　422P@50Mbps　　◇音声：LPCM　48kHz　24bit　8ch　ステレオ

◇MXFオペレーションパターン　OP1a

◇番組の収録音声レベル　　・ラウドネスメーター値　-24LKFS±1dB　の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



＊予備SB(ｽﾃｰｼｮﾝﾌﾞﾚｰｸ)は、１枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで基準フォーマット収録する。

＊送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

注1：　ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
　2：　音声基準信号は、0VU＝基準量子化値(フルビットから20dB下がった値　－20dBFs)とする。
　3：　タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
　4：　無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
　5：　番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
　6：　デジタル音声のプリエンファシスは使用しないこと。
　7：　ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
　8：　末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別添 1-2

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送出、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1．エディウス（GrassValley　EDIUS）

2．プラナス　（PRUNUS）

3．ｱﾋﾞｯﾄﾞﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾎﾟｰｻﾞｰ(Avid Medeia Composer)

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。

別紙２

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組･本数･概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
瀬古プロデューサー

1)番組名（グループ名）	2）個別番組タイトル
”科学”からの招待状	惑星と生命の普遍性と多様性を探る
3)関係の深いコース 自然と環境	
4)放送回数、期間、マルチ展開など ２年２０回 インターネット配信公開講座等オンラインでの展開希望	5）番組尺、本数 ４５分　×　２本

6)内容等

ａ．目的・ねらい

1990 年代初めに発見された太陽系の外に存在する惑星（以下「系外惑星」と呼ぶ）は、その後大きな発展を遂げ、今や天文学・惑星科学の中心的研究分野として確立している。すでに、系外惑星は恒星の周りに普遍的に存在することが明らかとなり、中心星の性質とその周りの惑星軌道要素によって決まる惑星系の多様性は、宇宙において地球がどのような存在であるかを観測的に明らかにしつつある。いうまでもなくこれは、地球外の生命の普遍性と多様性という究極のテーマに対して、科学的にアプローチできる時代の到来を告げている。実際、今後１０－２０年スケールで計画されている天文学の次世代大型プロジェクトの数々において、地球外生命（の兆候：バイオシグニチャー）の発見は必ずその主目的の一つとして明記されている。現在までに明らかとなった系外惑星の観測の現状から将来の宇宙生命探査の可能性に至る道を、宇宙の誕生から天体形成に至る宇宙史という観点から俯瞰し、それらがさらには地球外文明探査とどのようにつながっていくかを、広い視聴者を対象として紹介する。

ｂ．内容・構成

系外惑星の形成に至る物理学と、そこから発展する天文学を対比させながら、研究の最前線を相補的に伝える以下の 2 回の番組とする。

第１回「宇宙史における惑星系と生命の普遍性」：須藤靖（東京大学教授）が、物理学的な視点から、ビッグバン宇宙から惑星系の誕生に至る宇宙史を概観し、その先にある生命の可能性を考察する。より具体的には以下の項目を論じる。

宇宙誕生後３分間で起こる軽元素合成、宇宙マイクロ波背景輻射に刻まれた宇宙の初期条件、数億年後に誕生する第一世代天体の誕生、天体の進化と恒星内部の元素合成、星の最期とその際に放出された元素の循環、その後に誕生する第二世代、第三世代の星および惑星系の誕生と共進化、そこから予想される惑星系の普遍性と多様性、さらには地球外生命や地球系外文明の可能性。

第２回「観測的に探る惑星の多様性とバイオシグニチャー」：藤井友香（国立天文台准教授）が、生命を宿しうる惑星とはどのようなものか、そしてそこに生命の兆候と解釈できる指標（バイオシグニチャー）を紹介し、それらの観測可能性を論じる。具体的には、地球上の生命進化史、過去 30 年間近く観測されて きた系外惑星の性質とその統計、系外惑星の直接撮像、バイオシグニチャーとしての惑星大気の分光観測 と新たなバイオシグニチャーの提案、系外惑星の将来観測計画と生命探査の可能性。

第１回では須藤の解説に対して藤井が、第２回では藤井の解説に対して須藤がそれぞれ視聴者の視点から適宜質問や確認をすることで、一方向の説明だけが進むことのないように配慮し、異なる視点をわかりやすく伝えられるように努める。この 2 回を通じて問いかけられる謎は、「宇宙には必然的に生命が存在するのか、そうであるならばそこにどのような普遍性があると考えられるか」、そして「地球外生命および地球外文明が存在したと仮定した場合に、我々人類はそれを科学的に検出することが可能なのか」の２つである。科学の究極のゴールというべきこのテーマに対して、この世界の普遍性と多様性、また必然と偶然という視点から、現在どのような研究が進行中であるかを伝えたい。

（別紙に最近作成した、一般向けの関連する話の URL を添付）

ｃ．取材対象　　ロケ取材　：無　　**など**

ｄ．　出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

須藤靖（東京大学教授）、藤井友香（国立天文台准教授）

7) 主体性の確保

この企画を立案した東京大学の須藤靖教授は、これまでも放送大学の放送科目で何回も担当講師を務めてきた。 この番組は、最近の研究の発展を紹介するその補足番組としても位置づけることができる。放送大学でこれまで に作成した印刷教材：「天体と宇宙の進化」（1998, 杉本大一郎他、12-15 章担当執筆）;「宇宙の進化」（2001, 杉本大一郎他、12-14 章担当執筆）、; 「宇宙とその進化」（2015、12-15 章担当執筆）、「宇宙の誕生と進化」 （2019、谷口義明他、12-15 章担当執筆）

8) 制作予定期間　　**契約締結日　～　令和 4 年 12 月 28 日**

9）演出上の特記事項

10）スポット制作希望（原則有り）　有	**11）字幕制作希望**　有　・　無

資料

2022 年度企画提案：「惑星と生命の普遍性と多様性を探る」

担当講師：須藤靖（東京大学大学院理学研究科・教授）、藤井友香（国立天文台・准教授）

須藤靖が最近一般向けに話したときに使った「系外惑星」に関するスライドの URL:

http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~suto/myresearch/kyoto-planet20-Oct26-30.pdf
http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~suto/myresearch/sciencehills-komatsu-2021.pdf
http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~suto/myresearch/ohtemae-2021June26.pdf
http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~suto/myresearch/homecoming-2021Oct16.pdf
http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~suto/myresearch/ubi-resceu-2021Dec14.pdf

別紙３

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー，ディレクター
大塚制作部長

1)番組名(グループ名)	2) 個別番組タイトル
数理・データサイエンス・AI	データサイエンス専門レベル 脳トレアカデミア・統計学の腕力を鍛える（仮）
3)関係の深いコース 情報コース	
4)放送回数，期間，マルチ展開など ４年４０回 キャリアアップ支援認証制度の講座としてインターネット配信公開講座により提供，オンライン授業でのコンテンツ活用９	5) 番組尺，本数 45分　×　５本

6)内容等

ａ．目的・ねらい

本企画提案は，情報処理学会データサイエンス教育委員会が策定したデータサイエンス・カリキュラム標準（専門教育レベル）に準拠した教材を制作し，本学も含めた全国の大学・高専等の数理・データサイエンス・ＡＩ教育に対して貢献することを目的とする．

昨年度本学では，応用基礎レベルの数理・データサイエンス・ＡＩを学修する教材を制作した．今回教材を制作する専門レベルは，応用基礎レベルの教育を終わった人々が，それぞれの領域でデータサイエンスを活用する専門家の入り口として位置付けられており，それぞれの領域において，データから意味を抽出し，現場にフィードバックする能力を活用し課題解決につなげる能力を育成することを学修目標とするものである．しかし，現状のコンテンツでは知識の獲得に重点が置かれており，次に必要となる，それらを統合して現実の課題抽出と解決，サービス価値創造に至るデータサイエンスサイクルの実践演習のガイドとなる教材である．本企画では，具体的な事例に沿って，課題の抽出からデータの分析，解決策の導出までの基本的な流れを解説し，同時に，実際のデータセットでその実践ができる，いわゆる「手が動く」技能の修得が可能になる構成とする．

なお，令和４年度において，本学は専門レベルの数理・データサイエンス・AI に関する教育コンテンツを制作するものとして文部科学省から予算措置を受けており，本教材はその予算を原資として制作する．

ｂ．内容・構成

内容はデータサイエンス・カリキュラム標準（専門教育レベル）の「A:基礎数学と数理統計学：数理統計学」「B1:データマイニング」に該当する．なお，数理・データサイエンス・AI 教材のレベルについて，全体のレベルとの対応を以下に示す．

・リテラシーレベル：数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム作成のモデルカリキュラムに準拠。全ての大学・高専生が学ぶべきものとされており、数理・データサイエンス・AI を活用するための基礎的な素養を身に付けることを目指す。

・応用基礎レベル：数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム作成のモデルカリキュラム

に準拠。リテラシーレベルを補完的・発展的に学び、データサイエンス、データエンジニアリング、AIの基本的な概念・手法・応用例を学ぶ。

・専門レベル：情報処理学会データサイエンス教育委員会策定のカリキュラム標準に準拠。応用基礎レベルの学修を前提とし、自身の専門分野において数理・データサイエンス・AI を活用することができるようになることを目指す。AI 戦略における「応用基礎レベル」と「エキスパートレベル」の橋渡し的なレベルに位置する。（今回の企画提案は専門レベルに相当する）

なお，この番組は以下の方針で制作する.

・インターネット配信公開講座として展開する際の学習者の利便性を考慮し，1 回 15 分を３回分（45 分）にまとめて 5 本の講義とする.

概要：

	1.教師あり学習（相関・回帰分析）	2.教師あり学習（決定木による要因分析）	3.教師なし学習（分類のためのクラスタリング）	4.教師なし学習（主成分分析）	5.時系列データの分析基礎
① **課題と分析手法の関連性の説明**	不動産テック(価格予測)とは？ 相関，回帰，残差，適合度，モデル選択，ダミー変数，ロジスティック回帰	タイタニックの生存要因探索 決定木，回帰木，分岐基準	家計消費パターンによる地域分類 クラスタ-分析，分類基準，階層型と非階層型，デンドログラム，地図グラフ	商品・サービスの分類とポジショニング分析 特徴量，変数変換，次元縮約，パターン認識	店舗売上推移データの特徴と予測 指数，トレンド，周期線分(季節・曜日・時間帯別指数，目標値
② **データ分析操作演習と出力の読み方**	住宅市場データ他	タイタニックデータ他	家計調査データ他	POS データ他	時間帯・日別売上データ
③ **活用と発展・結果の可視化**	✔入場者数の予測からチケット価格連動性 ✔スリープテックへの応用 ✔リスク指標の構築 等々	✔来店頻度・DM 応答率による顧客属性分類 ✔医療・ヘルスケアでの活用	✔顧客・商品分類 ✔行動ログによる行動者のパターン分類	✔企業評価 ✔地域評価 ✔選手パフォーマンス評価 ✔顔認識	✔ネットワークにおける攻撃件数 ✔コロナ感染者推移 ✔体重・BMI 等の管理
<参考> **情報処理学会カリキュラム標準**	ACM16-10,17-01,-04,-06,-12,18-19, 20-01,-03, 11～16, 22-01～04,DS-021,022,038,	ACM20-16～18,DS-033～035	ACM19-01～05,-10~12,-15,DS-033～035	ACM22-08,09,	ACM16-04,-06,23-01,02,06,09,DS-066

各回のタイトルと番組内容

1. 教師あり学習（相関・回帰分析）：不動産の価格予測に適用されている統計技術を紹介し，過去のデータを分析することで様々な事象への応用方法を学習する.
2. 教師あり学習（決定木による要因分析）：データから決定木を実際に作り，データが示唆することを読み取る方法を学習する.
3. 教師なし学習（分類のためのクラスタリング）：データに基づいて，分類を行う技術を学ぶ．これによって，様々なデータから「分類」を行うことの意義を理解し，分類結果から得られる事柄を明らかにする.
4. 教師なし学習（主成分分析）：実際の POS データに基づいて，購買傾向，企業評価などを行う方法を学習する.

5.　時系列データの分析基礎：日々，月々の売上げには差異がある．このように時系列で変化するデータを取り扱うための方法を学習する．この方法を学ぶことで，データに基づいて将来の予測を行うことができるようになる．

- 各回はなるべく独立性を高く設計して，利用者が興味のあるものから受講できるようにする．また，各回から関心に応じてどの回を学習すればよいかの関連を明示する．
- 各回の講義の流れを統一することで，統計手法の学び方を学べるように意図した．
- 放送大学の専任教員がチェックをおこない，基本的な内容から始めるなど，わかりやすさを重視する．

ｃ．取材対象　　ロケ取材　：有り　　など

株式会社 SAS：グローバルデータサイエンス分析市場とソフトウエア

株式会社 True Data:　POS データの提供と市場分析

NRI セキュアテクノロジーズ：スパムメール等検出セキュリティとデータ活用

GA technologies GROUP：　不動産 AI 査定

株式会社 J リーグデジタル：観客 DB 構築と活用

ｄ．　出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は，担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

講師

１．渡辺美智子（立正大学データサイエンス学部教授）

２．藤井良宜　（宮崎大学教育学部教授）

３．菅由紀子（株式会社 Rejoui 代表取締役，関西学院大学大学院ビジネススクール，HBMS 県立広島大学大学院非常勤講師，データサイエンティスト協会スキルチェック委員）

４．朝日弓未（東京理科大学経営学部教授）

５．黒田正博（岡山理科大学経営学部教授）

7)主体性の確保

統計学の基本的な講義を説明した後，データサイエンティストになろうと考える人に有益な知識と技術を提供することを目指す．番組では，簡単なデータ分析の事例を示し，演習を行えるようにデータと分析手順のガイドを web サイトで提供するなど，自習環境も提供する．

8)制作予定期間	契約締結日　～　令和 4 年 11 月 30 日		
9）演出上の特記事項	無し		
10）スポット制作希望(原則有り)	有	11）字幕制作希望	有

別紙４

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
小川次長

1)番組名(グループ名)	2) 個別番組タイトル
スペシャル講演	スペシャル講演
3)関係の深いコース	
4)放送回数、期間、マルチ展開など ２年20回	5) 番組尺、本数 ４５分　× ７本

6) 内容等

ａ．目的・ねらい

放送大学が誇る講師陣によるスペシャル講演。退職される先生を中心に、シリーズとして制作・放送し、ベテラン教授陣により各分野の興味深い内容が聞けるシリーズとして好評を博している。

今年度は退職された学習センター所長７名の、アカデミックでかつ内容の濃い講演の様子を伝える。

ｂ．内容・構成

■「実例に基づく画像情報応用の可能性―口唇の動き特徴を用いた個人認証及びコマンド入力システムの開発―」　西田眞　前秋田学習センター所長

近年の画像処理システムの進歩に伴い、あらゆる分野で画像情報が活用されるようになってきた。しかしながら基本技術はブラックボックス化しているため中身を知ることは難しい。この講義では、口唇の動き特徴を用いた個人認証及びコマンド入力システムの開発を例に上げて、画像情報応用の可能性について考える。具体的には、研究に取り組むまでの経緯に始まり、口唇の動き特徴の概要、使用データ、口唇の動き特徴を用いた個人認証の流れ、コマンド入力システムへの応用、顔の位置変化の影響、時系列変化の影響、言葉の発生有無の影響等について解説する。

■「英語多読における流暢性獲得への認知科学からのアプローチ」小野里好邦　前群馬学習センター所長

英語多読とは、辞書を引かずに、分からないところは飛ばして先へ進み、楽しみながらたくさん読むことである。群馬学習センターで開講されたキース多読英語ゼミでは、学習者は当初感じていた英語の高い壁に怯むことなく、多読を継続し、英語の壁を乗り越えて、英語が流暢に読めるようになる高次元流暢性(Fluency)を獲得した。本講演では、このような学習過程をモデル化により説明する。

語学学習時に経験する意識変化の態様は、学習者により異なるが、このような意識変化を通して、英語学習は格段に進む点は共通している。意識変化を定量的に表現することにより、英語力向上のメカニズムを解明することをめざす。

■「エーリヒ・ケストナーとその時代－二つの世界大戦を越えて」佐藤和夫　前茨城学習センター所長

『飛ぶ教室』など子どもの本の作者として知られるドイツの作家、エーリヒ・ケストナーは1899年に生まれ、二つの世界大戦を直接体験した。第一次世界大戦が始まったときは若すぎて末期に招集はされたものの、前線の兵士として戦うことはなかった。第二次世界大戦では兵としての適格年齢を過ぎてい

て招集されなかった。しかし戦中・戦後の「身過ぎ世過ぎ」は安穏ではなかった。戦争を直接戦うのは軍人・兵士であっても、文民にも苦労は絶えない。この二つの大きな戦争を作家として、市民として生き抜いたケストナーの時代と作品を振り返る。

■「社会教育・生涯学習入門」長澤成次　前千葉学習センター所長

生涯教育は 1965 年にポール・ラングランがユネスコで提唱して以来、日本においても広がりをみせ、1988 年には文部省社会教育局は生涯学習局に改編され、2006 年の教育基本法「全部改正」で第 3 条に「生涯学習の理念」が新設された。一方、社会教育という用語が生まれてくるのは明治時代であり、社会教育もまた戦前・戦後を通じてさまざまな変遷をたどってきた。日本で歴史的に展開されてきた社会教育と 80 年代以降の生涯学習政策の流れをふまえつつ、社会教育と生涯学習をめぐる課題を私自身の社会教育との出会いを交えつつ論じたい。

■「河川の水質調査が語るもの」平山公明　前山梨学習センター所長

平山教授の研究室では 1971 年から 2000 年にかけて，甲府市の委託により、甲府市内の河川の水質調査を行った．この間、甲府市の下水道普及率が 30%から 90%に上昇し、その結果、水質も改善した。
講演では、まず汚れとは何かを解説し、水道の普及など生活環境の変化が水質にどの様に反映されているのかを示す。さらに，統計的な手法を用いて水質を総合的に把握することによって，この期間の水質変化の特徴を提示していく。

■「未来をあきらめない化学－地球という青いビー玉を守ろう－」大野隆　前兵庫学習センター所長

地球的な持続可能性は、私たち人類の未来を左右する大きな課題である。地球という大きなシステムに対しては、私たちの行為はほとんど影響を与えないように見えるかも知れない。しかし、私たちは一人一人でなく 10 億人単位での行動を考える必要がある。今回は、私たちに最も身近な空気に関わる環境問題から説き起こし、持続可能な未来のために化学はどのような役割を担っていて、どのような貢献ができるのかを解説していく。

■「ベートーヴェンの人生哲学――苦悩を超えて歓喜へ――」石川榮作　前徳島学習センター所長

ベートーヴェン(1770-1827)は難聴の苦しみだけではなく、身分違いの恋愛にも悩まされましたが、それらの苦悩を常に創作へのエネルギーとして数々の名曲を生み出していきました。さまざまな「苦悩」を乗り越えて、最終的に辿り着いたのが『第九』であり、それは詩と音楽と人間が一体となった「歓喜」の世界です。この『第九』の完成によってベートーヴェンのヒューマニズムも完成したと言えましょう。本講演ではベートーヴェンの「苦悩を超えて歓喜へ」（Durch Leiden Freude）の人生哲学から現代の私たちに大切なものを学びとることにしたいと思います。

c．取材対象　　ロケ取材　：有（現地での収録）　　など			
d．　出演者など　上記の講師　７名			
7) 主体性の確保　元放送大学教授･所長の講演を放送大学として番組にするもので、主体性は確保されている。			
8) 制作予定期間	契約締結日　～　令和 5 年 2 月 28 日		
9）演出上の特記事項			
10）スポット制作希望(原則有り)　有		11）字幕制作希望　無	